



歴史ロマンの宝庫、大矢知を歩く

四日市市

大矢知町南西部

大宝元(701)年、大宝律令が制定されると、日本国内は国郡里(後に郷)の行政組織に編成されました。現在の四日市市大矢知町一帯は伊勢国朝明郡に属し、古来、交通の要地でした。町の北側を八風道(伊勢と近江を結ぶ交易路)が通り、多くの人々や物資が往来していたのです。

令和2年、この大矢知町字久留倍と字矢内谷に、古代の官衙(役所)跡を整備した歴史公園「久留倍官衙遺跡公園」(くるべ古代歴史公園)「くるべ古代歴史館」が誕生しました。園内には、格式の高い門「八脚門」が復元されるなど、訪問者を古代へと誘います。

今回は、古代から江戸時代にかけて、さまざまな時代の歴史ロマンが詰まった大矢知町南西部を散策します。取材・文：中村真由美



三岐鉄道三岐線「大矢知」駅



松の大木が目を引く陣屋跡



照恩寺の山門



長倉神社



長倉神社から望む四日市港

「忍藩大矢知陣屋跡」

今回の散策の起点は、三岐鉄道三岐線「大矢知」駅です。最初に向かうのは、すぐ近くの大矢知興譲小学校です。実は、同校が建つ場所には、かつて武蔵国忍藩(現在の埼玉県行田市)の陣屋(代官所)が置かれていたのです。江戸時代の大矢知は桑名藩の領地でしたが、文政6(1823)年に藩主の松平忠堯が、忍藩に国替えを命じられたのにもない、同藩の領地になりました。当時の忍藩は、桑名藩の10万石に比べて石高が少なく、不足分を補うために、大矢知を含めた72

の村を飛地としたのです。大矢知に陣屋が置かれると、八風道は、朝明郡各村の年貢米を輸送する幹線となりました。

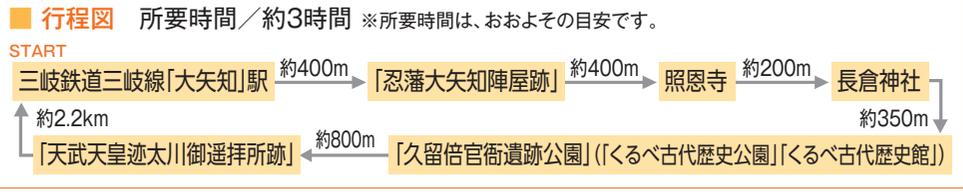
照恩寺から長倉神社へ

陣屋跡を示す案内板と松並木に歴史の重みを感じながら同校を後にすると、長倉神社の鳥居が見えてきました。鳥居の手前で右折し、少し進むと姿を現すのが、照恩寺の山門です。寺伝によれば、開基は江戸時代。風情ある山門は、桑名城内にあった城門の一つを移築したもので、『四日市市史』には「享保6(1721)年銘の鬼瓦があり」と記されています。

す。また、現在の本堂は、宝暦年間(1751~1764)建立と伝わります。照恩寺に別れを告げた後は、先ほど見かけた長倉神社へ。創建年代は不明ですが、平安時代成立の『延喜式』に記された、伊勢国朝明郡の二十四座の一つと考えられています。由緒ある神社の本殿は、階段を上った先に鎮座していました。「健康第一」「家内安全」などの願いが綴られた絵馬を見ていると、「ここから四日市港が見えますよ」との声が。水谷さんのお話通り、コンビナート群が望めました。なお、同神社の裏山には、南北朝時代



今回、ご案内いただいたのは「大矢知まちづくり構想推進委員会」歴史・文化の継承プロジェクト部長の水谷 好伴(よしとも)さんです。お話からは、地域への深い愛情が伝わりました。



の文中元(1372)年に築かれた「大矢知砦」がありました。水谷さんからは、この砦が北朝方と南朝方の壮絶な戦いの舞台の一つになったことなども教わりました。



「大矢知砦」跡



「正殿」(あずま屋)



「八脚門」(復元)



植栽された万葉植物と説明板

園内を散策すると、小休憩などに適した建物や、大きな門が建っているのに気づきます。前者は、役所の中心的な建物である「正殿(せいだん)庁屋(ちやうや)」の大きさを、現代の材料と工法によって表現したもの。後者は、古代の地方の役所の正面に採用された「八脚門」を復元したものです。進むにつれて、長大な建物の跡や正倉(せいそう) (米穀の貯蔵施設)を取り囲む濠(ほり)の跡なども示されていて、規模の大きさを実感できました。また、一面には『万葉集』に詠まれた植物が植栽されたエリアもありました。

「くるべ古代歴史館」

同園を訪ねたら、東側に併設された「くるべ古代歴史館」(入館料無料)に立

「くるべ古代歴史公園」

長倉神社にお参りした後、さらに進むと、目の前に広々とした芝生広場が現われました。小春日和のこの日は、凧揚げや散歩を楽しむ人の姿もあります。ここが「くるべ古代歴史公園」。園内からの眺望はすばらしく、四日市港や伊勢湾、対岸の知多半島までも一望できました。

古代の人々の瞳にはどんな光景が映っていたのか、想いを巡らすだけで胸躍ります。

「久留倍官衙遺跡」発掘のきっかけは、一般国道1号北勢バイパス建設にともなう事前調査です。その結果、弥生時代から中世までの各時代の遺構・遺物が多数発見されました。全国でも珍しい東西の役所の跡が発見されたほか、規模の大きな建物や倉庫群などが整然と並んでいることなども判明。古代の伊勢国朝明郡の郡衙(ぐんが) (郡家跡)の可能性が高いことなどから、平成18(2006)年に、国の史跡に指定されました。

「天武天皇迹太川御遥拝所跡」

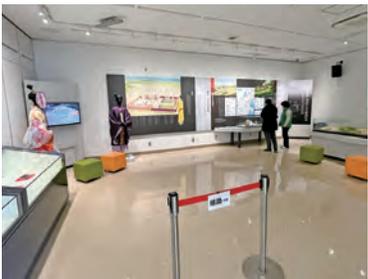
「久留倍官衙遺跡公園」で古代の風を感じながら、ゆっくりと散策・見学した後、南へ向けて歩きます。すると10分程度で「壬申の乱」ゆかりの「天武天皇迹太川御遥拝所跡」に到着しました。「壬申の乱」とは、天智天皇の死後、その皇位継承をめぐる、天武元(672)年に起こった乱のこと。『日本書紀』には、大海人皇子(後の天武天皇)が朝明郡の迹太川のほとりで戦勝を祈願したことが記されています。実は、御遥拝所の候補地は複数存在するのですが、江戸時代から

ち寄るのがおすすめです。館内にはボランティアガイドが常駐していて、丁寧な解説を聞くことができます。わかりやすいパネル展示に加えて、出土した墨書土器や円面硯なども展示され、間近に見ることが出来ます。また、「古代衣装体験」や「木簡づくり」なども可能。さらに「まが玉づくり」「火おこし体験」などが行われるイベントも随時開催されていて、古代の人々の息遣いを身近に感じることが出来ます。

なお、大矢知町を車で来訪の場合は、同館横の駐車場を拠点にするのが便利でしょう。



「くるべ古代歴史館」外観



館内の様子



出土品の展示風景



「天武天皇迹太川御遥拝所跡」

地元で大切に守られていることなどから、この地が県の史跡に指定されています。迹太川についても諸説あり、現在では、海蔵川や三滝川とする説が有力です。ほかにも説明されていない謎が多く、想像力を掻き立てられます。

散策の終点は再び、三岐鉄道三岐線「天矢知」駅ですが、東へ向けて約15分歩けば、近鉄名古屋線「富田」駅です。都合に合わせて利用するとよいでしょう。さまざまな時代の歴史や文化を感じられる大矢知散策はこれで終了です。

問 四日市市大矢知地区市民センター
TEL 059-364-8704
「くるべ古代歴史館」(月曜・火曜日休館日)
TEL 059-365-2277